



アパレル系の会社で働いていたある日、工事現場で働く人の姿を見て「素敵だな」と感じたのをきっかけに、建設業に飛び込んだ。数ある工種から「土木」を選択。その理由は「地図に残る仕事をしたかった」から。「他の人と協力してつくるという行為が、性格に合っていた」と、自己分析する。

小野 里佳子さん

㈱ワールドコーポレーション
(千代田区)



“地図に残る”
土木の仕事に
魅力感じて

入社後、2級土木施工管理技士の資格を取得。仕事と勉強の両立は大変だったが、「現場を見ていて理解できたこともあり、机上で勉強するより覚えやすかった」と、現場重視で乗り越えた。

いま従事する現場は、日本橋川に架かる首都高速道路の地下化の関連工事。CCI東京の第3回建設業若手・女性活躍大賞にも選出されている。自身は、本線用橋桁の塗装作業の施工管理を担当。心掛けているのは、作業員や他の監督ら関係者間のコミュニケーションだ。連絡・伝達事項は「要点を手短かに、分かりやすく伝えるのが大切」と感じている。

入社して5年。「いずれは現場責任者になれば。その前に1級土木施工管理技士の資格を取得したい」。来年の1月には受験資格を満たす。さらに、「他の資格にもチャレンジしたい」と先を見つめる。
(佐藤有一)